

ビジョン連携推進会議 第三分科会第 1 回目 開催概要

- 1 日時 平成 25 年 7 月 30 日 (火)
- 2 テーマ 「産学公金連携」
- 3 臨時構成員 多摩信用金庫
- 4 要旨
 - (1) 多摩の産業の現状と課題について
 - 一時代前に大企業をスピンアウトし起業した経営者層が事業承継時期を迎えていることも 1 つの背景として、多くの企業が事業承継時期を迎えているが、全体を見渡せば、経営者の約 2 割が廃業を考えていると想定され、事業承継は喫緊の課題である。
 - 製造業、建設業、小売業の従業員数が減少し、医療・福祉分野での雇用がその減少を補っている現状があり、営業現場で福祉分野でのニーズが多くなってきたほか、企業が新規事業進出分野として、福祉分野や環境分野を考えるケースも増えてきている。
 - (2) 観光産業への取組について
 - たましんは多摩地域 418 万 5 千人 (平成 22 (2010) 年国勢調査) の住民の回遊に着目し、「広報たまちいき」、「たまら・び」の発刊、「東京・多摩のお土産プロジェクト」の事業化のほか、会員数 2.4 万人の「多摩らいふ倶楽部」を運営し、多摩地域の元からある自然・観光資源のみならず、企業等を観光対象とした産業観光や視察観光を展開しており、実績も積んできている。
 - こうした取組は、民間企業ならではの柔軟な発想による、地域を越えた広域的展開や特産物、観光資源の発掘などに特徴があるほか、人件費は持ち出しであるが、事業単体では採算を確保していることなど、その仕組み等も含め学ぶことも多かった。
 - (3) 創業支援の現状と課題について
 - 金融機関での創業支援について、採算を確保するのは極めて困難である状況がよく理解でき、そういった中でも、創業者への支援、そして創業したい、あるいは創業しそうな事業者の卵を早期に見つけ、支援していくことも重要であるとのたましんの認識について、大いに共感するものがあった。
 - たましんだけでは数多くの創業者への支援を行うことは困難であるので、地域の中に創業支援をしたいという、30-40 くらいある NPO や民間事業者などをたましんが支援するという形の、間接的な支援を多くしたいと考えている。
 - (4) 産学官等との連携の現状と課題について
 - たましんは、専門人材の育成が課題と認識しており、複数の大学や自治体に若手職員を派遣するなど含めて連携しているが、最近では、理系学部、産業分野のみならず、文系学部や福祉分野との連携も必要となってきた。
 - (5) その他
 - たましんは、行政が行う役割の一部を担い、一部は同質化が進んでいるとの認識があるとの考えを示すとともに、行政とは異なり、必ずしも公平性にとられる必要がない点や自治体圏域を簡単に越えられる有利性も説いたが納得できる点も多かった。
 - 様々な団体間の地域や組織を越えた連携の必要性の認識の共有化とともに、その困難性についても意見交換した。